

## 平成31年3月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km<sup>2</sup>)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,455	8,795	4,485	4,310	△ 13	△ 10
2 千 石	4,026	6,858	3,425	3,433	△ 9	△ 11
3 内 山	5,563	7,726	4,064	3,662	△ 18	△ 9
4 大 和	3,386	6,659	3,285	3,374	3	△ 4
5 上 野	7,291	15,425	7,680	7,745	0	14
6 高 見	7,339	13,481	6,450	7,031	△ 31	△ 36
7 春 岡	6,855	10,941	5,763	5,178	△ 7	△ 5
8 田 代	11,572	22,065	10,686	11,379	△ 1	△ 7
9 東 山	10,346	19,532	9,625	9,907	△ 6	18
10 見 付	4,356	8,128	4,096	4,032	△ 3	1
11 星 ケ 丘	3,523	6,877	3,113	3,764	△ 11	△ 21
12 自由 ケ 丘	3,531	7,214	3,291	3,923	△ 10	△ 17
13 富士見台	6,457	15,399	7,141	8,258	1	3
14 宮 根	3,804	8,248	3,941	4,307	△ 6	△ 11
15 千代田橋	3,657	8,474	3,978	4,496	1	△ 9
千 種 区 計	87,161	165,822	81,023	84,799	△ 110	△ 104
H30.3.1	86,819	166,191	81,358	84,833	△ 137	△ 198
対 前 年 比	342	△ 369	△ 335	△ 34	27	94
名 古 屋 市	1,104,703	2,320,488	1,146,110	1,174,378	143	△ 933
愛 知 県 ( H31.2.1 )	3,202,845	7,543,384	3,774,015	3,769,369	1,828	△ 9

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	94	119	△ 25	826	905	△ 79

【参考】

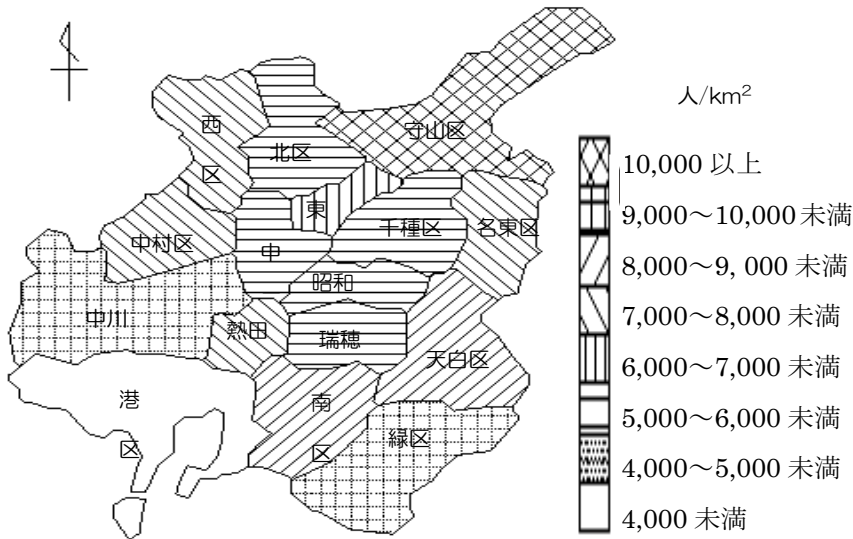
国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
平成7年	148,847	平成27年	164,696	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成27年国勢調査結果確定値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

## 千種区の人口密度の概況

今回は平成 30 年 10 月 1 日現在の各区と千種区の各学区の人口密度を他区と比較しながらみていきます。

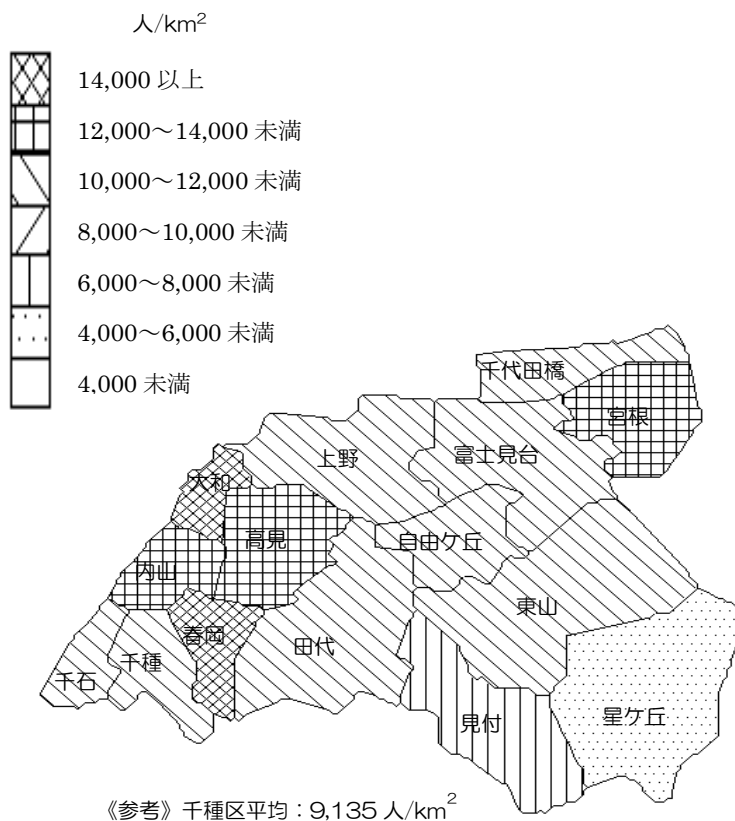
図 1: 区別人口密度 (平成 30 年 10 月 1 日現在)



平成 30 年 10 月 1 日現在の区別人口密度をしてみると (図 1)、東区が 10,450 人/km<sup>2</sup> と最も高く、昭和区 10,018 人/km<sup>2</sup>、瑞穂区 9,554 人/km<sup>2</sup>、中区 9,473 人/km<sup>2</sup>、北区 9,339 人/km<sup>2</sup> と続き、千種区は 9,135 人/km<sup>2</sup> で 6 番目でした。

人口密度が低いほうから見てみると、港区が 3,159 人/km<sup>2</sup> で最も低く、守山区 5,159 人/km<sup>2</sup>、緑区 6,496 人/km<sup>2</sup> と続きます。全体的に見てみると、名古屋市の中心部は人口密度が高く、郊外は低い傾向が見られます。

図 2: 千種区の学区別人口密度 (平成 30 年 10 月 1 日現在)



続いて、千種区の人口密度を見ていきます。

平成 30 年 10 月 1 日現在の千種区の学区別人口密度が高い順に春岡 (14,854 人/km<sup>2</sup>)、大和 (14,101 人/km<sup>2</sup>)、高見 (12,782 人/km<sup>2</sup>)、内山 (12,714 人/km<sup>2</sup>)、宮根 (11,891 人/km<sup>2</sup>) の順となっています。

人口密度が低いほうから見てみると星ヶ丘 (3,230 人/km<sup>2</sup>)、見付 (5,277 人/km<sup>2</sup>)、東山 (8,071 人/km<sup>2</sup>)、上野 (8,397 人/km<sup>2</sup>)、自由ヶ丘 (8,726 人/km<sup>2</sup>) の順となっています。

区の西側の学区が高いのに対して、東山公園や名古屋大学を含む星ヶ丘学区や見付学区が低くなっているのが分かります。